

農業・農村経済学プログラム プログラム専門科目

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目（基盤科目）		農業・農村経済学 （1単位） Agricultural & Rural Economics	本講義は、農業・農村プログラムにおける基盤的性格を持ち、基礎から応用に至る高度な専門分析能力の養成を試みる。加えて社会デザイン科学専攻他プログラムおよび工農総合科学専攻に所属する院生を受け入れ、それらの院生にも経済学の基礎知識を修得できるような学際的講義の性格を持たせる。こうした授業の性格を踏まえて、基礎科学である経済学、経営学、歴史学、社会学等の今日的論点と課題を整理するとともに、農業・農村経済学を構成する専門領域の理論と問題構図を今日の食料・農業・農村問題に引きつけて講義する。
		農政学（1単位） Agricultural policy	院生の修論テーマも参考にしながら、現下の日本の農政課題を具体的に検討する。その過程で修論に関係した分野の院生の発表の機会も作る予定。 具体的には、食料・農業・農村白書を素材に、農政の展開と制度の概要を検討する。 食料政策の動向として、自給率、食生活、国際化、国境調整措置等、食料生産、米政策改革の動向、経営展開、担い手の育成について。また、農村政策の動向として、農村地域政策、中山間地対策、農村活性化、農商工連携の動向など。また、修論テーマに関わる農政課題の検討を計画している。
		農業生産組織論 （1単位） Farming Organization	わが国における農業生産組織化の歴史的展開をレビューするとともに、農業生産組織の管理運営及び展開条件について、農業経済学、農業経営学、さらに一般組織論の視点から考察する。 具体的には、農業生産組織の背景・概念を軸とした農業生産組織の諸類型と特徴農業生産組織に対する基本的理解、農業生産組織の歴史的展開として、集団栽培組織の展開、機械利用組織の展開、集団転作組織展開、集落営農の展開などの授業を計画している。
		農業・農村史（1単位） History of Agriculture and Rural Society	現在のような日本の農村や農家が成立した近世（江戸時代）から近代（明治以降の戦前期）を経て現代（戦後からこんにち）までの農業・農村の通史を理解する。 具体的には、近世、明治維新・近代化開始期、明治後期・日本資本主義確立期、第一次大戦・大正デモクラシー期、第二次大戦期、戦後復興期、高度成長期、国際化時代の農業と農村などの授業を計画している。

区分	英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目 （基盤科目）		農村社会学（1単位） Rural Sociology	日本の農村社会学には戦前からモノグラフ研究の伝統があり、農村の社会構造、生活組織、生活意識（村の精神）などに関する分析手法が蓄積されてきた。本講義では、教員が直接関与した中国と日本の農山村における調査事例をもとに、農山村に暮らす人びとがどのような生活意識をもって自らの地域を創りあげようとしているのかを、質的調査法の特徴の理解も含めて、解明していく。
	○	アグリビジネス論 （1単位） Agribusiness	アグリビジネスの基礎知識を学び、ビジネススキルを修得しながら、アグリビジネス視点で農業経営を分析する。 具体的には、アグリビジネスとは何か、日本のアグリビジネス、欧米諸国のアグリビジネス、アグリビジネスの視点、アグリビジネスで解く農業のビジネスモデル、ソーシャルビジネスの視点、農業以外のビジネス、アグリビジネスの全体像などの授業を計画している。
		農村地理学（1単位） Rural Geography	農村地域そのものを取り上げ、地形図や空中写真の読図、統計の活用、GISによる地図作成、現地踏査を通じて自然的特性、社会経済的特性について学ぶ。実際のフィールドにおける地域資源の維持管理、住民の就業構造および通勤行動、都市農村交流事業などを、調査分析する力を習得することを目指す。 具体的には、農村研究の視座－日欧の比較－、農村環境の地図化、村落社会の維持と世帯再生産メカニズム、中山間地域の営農と多面的機能、鳥獣被害対策の実際、農村空間の商品化、巡検の実施計画、巡検の振り返り、などの授業を計画している。
プログラム専門科目 （応用科目）		マーケティング論 （1単位） Marketing	応用的なレベルのマーケティングに関する理論・知識の習得を目指す。 具体的には、市場細分化、ブランドとは何か、ブランド戦略、地域ブランド、経済のサービス化とマーケティング、サービスと関係性、サービスの品質、サービスと利益などの授業を計画している。
		ソーシャルビジネス論 （1単位） Social Business	経済的利益と社会的利益の両方が期待できるソーシャルビジネスを農村地域資源の持続的管理のための手法として講義する。理論的整理に加えて、具体的なデータを用いて事例分析も行う。具体的には、ソーシャルビジネスの定義、ソーシャルビジネスの理論、ソーシャルビジネスの事例分析、農村におけるソーシャルビジネスの役割などの授業を計画している。

区分	英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目 (応用科目)		統計分析論（1単位） Statistics	<p>統計学の講義とパソコンを使った統計解析の実践演習を行う。</p> <p>具体的には、統計学の基礎知識、統計学の基礎知識、単回帰分析、多変量回帰分析、多変量回帰分析、時系列回帰分析、質的変数の分析、パネルデータの分析などの授業を計画している。特に、食料・農業・農村に関する様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを深い理解とともに適用する能力の修得に関連する。</p>
		環境経済学（1単位） Environmental Economics	<p>ミクロ経済学の理論をベースに、環境や地域資源の管理に関わる問題の現状や要因について理解を深めるとともに、環境保全や資源管理を実現する政策や制度変化のあり方を検討する。</p> <p>具体的には、経済成長と環境・資源問題、外部性と環境政策、農業・農村の多面的機能と農業環境政策、自然資源の最適利用、コモンズの理論、農村におけるバイオマス資源の利用、農地管理に関する諸問題、貧困と環境・資源問題などの授業を計画している。</p>
		フードシステム学 (1単位) Food System	<p>応用的なレベルでのフードシステム学に関する理論と知識の習得を目指す。</p> <p>具体的には、フードシステムと主体間関係、食品産業の役割(外食産業、食品小売業、食品製造業)、食生活の変化と消費者の意識・行動、農業生産者の状況と取り組み、グローバル化と国際フードシステムなどの授業を計画している。</p>
プログラム専門科目	○	農業・農村経済学特別演習（4単位） Advanced Seminar in Agricultural and Rural Economics	<p>主指導教員と副指導教員は、農業・農村経済学の分野に関連する学生の研究テーマ・修士論文に即して、ディスカッションやリサーチワーク(先行論文考察、実験、データ解析、フィールド調査設計、など)等を行い、専門知識・技術の深化を図る。なお、境界領域・学際的領域の観点からコミュニティデザイン学分野・グローバルエリアスタディー分野に関するディスカッション等も含む。</p>
	○	農業・農村経済学特別研究（6単位） Advanced Research for thesis in Agricultural and Rural Economics	<p>「農業・農村経済学特別研究」は、修士論文研究の遂行過程を総合的に評価して単位を認定するものである。農業・農村経済学プログラムを専攻する学生の研究テーマは、食料分野、農業分野及び農村分野と広範囲に渡るため、授業内容の詳細は研究テーマに合わせて個別に設定される。修士論文の作成にあたっては、まず研究テーマを決定し、研究内容を十分に把握した上で、到達目標に向けた種々の内容を、研究の進行状況に応じて指導教員の適切な指導のもとに実施するとともに、研究者として必要な倫理観を養成する。なお、境界領域・学際的領域の観点からコミュニティデザイン学分野・グローバルエリアスタディー分野に関するディスカッション等も含む。成果は随時とりまとめ、主としてゼミナール形式で指導教員に報告する。2年次前期終了時には、プログラム担当教員の参加のもと、研究成果の模擬報告・発表を行う。</p>

区分	英語 対応	科目名（単位）	授業の概要
プログラム専門科目	○	農業・農村経済学実践プロジェクト（6単位） Non-thesis Research Project in Agricultural and Rural Economics	<p>本科目は、修士論文を課さないコースワークを選択する学生が受講し、研究者として必要な倫理観を養成するとともに、地域の課題解決と結びつく実践的活動、あるいは実践知の解明を、コースの専門教員が掲げる特定課題に沿って実施する。コースワークを希望する学生は、入学時点で、主指導の教員が提示する特定課題に沿って、自らの2年間のプロジェクト計画を提示することが求められる。プロジェクト計画の作成とその実施、修正必要箇所の確認と方針の更新を繰り返し、1年次前期の間にプロジェクト計画を確定させる。主に1年次後期～2年次前期にかけてプロジェクトを実施し、2年後期に実施したプロジェクトの成果についての検証を行う。プロジェクトの実施や成果の検証に必要な文献検討を通じて、成果に結びつくプロジェクトを立案・実施する能力を養う。</p> <p>また、プロジェクトを通じて遂行された地域の課題解決と結びつく実践的活動、あるいは実践知の解明の成果を、付随する作品等を含め課題研究報告書としてまとめ上げる。具体的には、当該する実践的活動あるいは、実践地の解明をもとに、先行する研究成果や活動報告の中に位置づけた上で、その対象・方法・プロセスなどを説明した上で、分析・考察・報告などを詳述し、結論づける。以上の作業を担当教員の指導の下に実施する。</p>